

## 限界集落でできるジオパークの可能性 The possibility of the Geopark in the marginal villages

平野 皓大<sup>1\*</sup>; 福田 将志<sup>2</sup>

HIRANO, Koudai<sup>1\*</sup>; FUKUDA, Masashi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 南紀熊野ジオパーク, <sup>2</sup> 南紀熊野ジオパーク

<sup>1</sup>Nankikumano Geopark, <sup>2</sup>Nankikumano Geopark

全国で唯一飛び地の村といえば和歌山県の北山村。三重県、奈良県の山々に囲まれた穏やかで美しい村である。ジャバラや観光筏で有名なこの村の他にも、和歌山県には飛び地が存在するのはご存じだろうか？ 新宮市熊野川町嶋津も飛び地なのである。

また飛び地ではないけれど、山深いその地形から人の往来がほとんど乏しい小さな集落がある。新宮市熊野川町篠尾。この二つの地区は、南紀熊野ジオパークエリアに含まれ、ジオサイトも存在する。

一和歌山県新宮市熊野川町嶋津—人口 15 人 (8 世帯) 高齢化率約 67%

一和歌山県新宮市熊野川町篠尾—人口 30 人 (20 世帯) 高齢化率約 87%

数十年前から何にも変わらないこれらの地区で、一つだけ変わっていったことがある。それは人口が減っていることだ。このままいくと、もしかしたらあと数年後に集落はなくなってしまってもいけない。みんなに忘れ去られてしまってもいけない。新宮市民でさえどこにあるのかよく知らないこれらの地区は、限界集落と言えるであろう。

様々な要因から若年層が離れて行き、高齢化率は加速する。同様の集落は多く存在する。またそんな集落をなんとかしようと、いろいろなことに取り組む住民がいる。

そんな限界集落にジオパークに関わることによって何が出来たか？ 何が変わったか？ そして今後何ができるか？ 限界集落でできるジオパークの可能性を探っていく。

キーワード: 限界集落, ジオパーク, 高齢化率, 北山村, 嶋津, 篠尾

Keywords: marginal village, geopark, population aging, Kitayama village, shimazu, sasabi